

一般質問



村尾 議員

○自治会の持続可能な運営と地域コミュニティの維持について

質 本市は自治会の加入率を上げるために何らかの対策を取っているかお尋ねします。

総務課長 自治会はその地区の住民の意思によって組織されるものであり、自治会加入の促進については各地区で自主的に取り組まれているので、行政が直接的に加入に向けての働き掛けはこれまで行っていませんが、区長のほとんどが松浦市地域自治会連合会の会員であり、その事務局を総務課が担当していることから、これまでも同連合会における自治会での課題をテーマにしたグループディスカッションの開催などに対する支援を行っています。このため、本市としては、連合会などを通じて各地区からの要望に、可能な範囲で支援を行いたいと考えています。

質 防犯灯の維持管理について先進自治体の状況を参考にした制度改革の考えがあるかお尋ねします。

防災課長 防犯灯設置の目的と受益者負担の原則から現行制度としていたため、今後も同様の運用を継続

していきたいと考えています。

質 防犯灯の電気代負担が自治会の課題となっているため、太陽光発電システムの防犯灯を導入する予定はないかお尋ねします。

防災課長 太陽光発電システムの防犯灯の設置については、これまで導入の検討は行っていませんが、場所によっては太陽光発電システムの防犯灯の設置が適する場合も考えられるため、整備費用、維持管理に係る費用など、通常のLED灯と比較しながら、導入について今後研究していきます。

質 地域コミュニティを維持するため、自治会の負担を軽くし、本市が管理できる体制づくりが必要と考えますが見解をお尋ねします。

市長 小学校区単位での協働によるまちづくり運営協議会の設立を推進して、自治会が中核となり、組織や団体間の相互補完関係を構築することで、改めて自治会活動に対する住民の理解が深まり、加入促進を図ることができ、活動の中で、今後の自治会活動を担う次世代のリーダーや新たな担い手の発掘も期待しています。また、行政が自治会にお願いをしている中で、見直すべきところは見直す必要があると思っています。ですので、市報の電子化、業者によるポスティングなどを具体化しながら、負担軽減に努めていきます。

一般質問



岩本 議員

○災害時の避難所になる小・中学校の体育館へのエアコン設置について

質 異常気象により近年の日本では7月から9月が豪雨災害が最も多く発生する時期であり、本年5月から防災気象情報の発表基準等が大きく変わったことで、「指定緊急避難場所」・「指定避難所」を兼ねている小中学校の校舎や体育館へ、災害発生時には多くの方々が避難されると思われるため、その体育館にエアコンが設置されていないことで、熱中症などの二次被害や命を落とす危険性が高くなると考えられます。災害は本当に待ったなしに起こります。小中学校の体育館へのエアコン設置の考えを伺います。

市長 体育館へのエアコン設置については、さまざまな課題があるため、今後の大規模改修に合わせ適切に考えていかなければならないと思っています。大量の電気をこれまで以上に使うことで、キュービクル（高圧受電設備）の増設だけではなく、電気の基本料金の上昇も想定されることから、今後の状況を見ながら、適切に対応していきたいと考えています。

○乗り合いバスの停留所以外での乗降について

質 「乗り合いバスを利用したいが、自宅がバスの停留所と停留所の中間で、徒歩では停留所まで距離があり利用できない」、「どのルートでも停留所以外で乗降できたら利用がしやすくなる」、「乗り合いバスを利用したいが、沿線からかなり離れていて、バス停までの距離があり困っている」、「車の運転が不安で運転免許証の自主返納を考えているが、バス停留所が遠く、足腰が悪くて利用できない」などのさまざまな切実な市民の声を聞いています。この声に対して、本市としての対策と今後の展開を伺います。

市長 「乗り合いバスの停留所が自宅から離れていてバスを利用したくても利用できずに不便で困っている」という市民の声があることは承知をしています。松浦地域における陸路交通の再編は喫緊の課題であることから、現在改定作業を進めている松浦地域公共交通計画において各地域の特性を踏まえ、特に松浦地域においては、この計画に基づき、地域の基幹交通であり、骨格をなす松浦鉄道を軸に、各地区の実情に応じたコミュニティバスの再編や効率化を図り、持続可能で交通弱者に配慮した公共交通ネットワークの再構築に努めていきます。